

研究タイトル: Communicative Language Teaching を用いた言語活動の開発



氏名:	青砥 正彦 / AOTO Masahiko	E-mail:	aoto@yonago-k.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(学術)
所属学会・協会:	全国高等専門学校英語教育学会・英語授業研究学会		
キーワード:	英語教育学		
技術相談 提供可能技術:	TOEIC、語彙指導		

研究内容: Communicative Language Teaching を用いた語彙指導活動の開発

目標言語を使用してコミュニケーション能力の育成を目標とする教授法は、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング(CLT: Communicative Language Teaching)と呼ばれています。CLT では従来の外国語の教材で広く用いられてきた文法や言語構造のシラバスから、言語がコミュニケーションにおける意味や機能を重視した概念・機能シラバスへの転換を図りました。概念・機能シラバスでは、依頼、謝罪、同意などの伝達目的を特定して、コミュニケーションが行われる場面や文脈を明確にした上で、それらを目標言語で表現することが学習の目標となります。

たとえば、授業のシラバスは、以下のように配列されます。

(1)自己紹介をする、(2)相手の趣味を知る、(3)相手を勧誘する、(4)相手に相づちを打つ、(5)相手に謝罪する。これらをひとつずつこなしてゆくごとに、目標言語の社会での行動様式を学んでいきます。

概念・機能シラバスにおいては、カリキュラムは言語使用の場面ごとのユニットに分けられて、言語項目はコンテキスト(文脈)の中で教えるように編成されます。

語彙学習をする際も語彙の知識を4技能の能力に役立てるために、語彙の定着を促す指導として意識的に語彙を記憶させる指導、言語活動を通して語彙を定着させる指導があります。語彙学習を苦手とする学生を支援するために様々な工夫をしながら教材を開発しています。

担当科目	英語表現 I, 英語総合演習
過去の実績	Masahiko Aoto, Activities for Introducing and Reinforcing Vocabulary(2007) Mext Six-Month Overseas Study Program Professional Development Dossier, uOttawa
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法・教材資料集(2011)新時代を拓く学びの創造プロジェクト 高校生学力向上部会(英語) 鳥取県教育委員会(共著) ・授業実践へ向けて(2013) 新時代を拓く学びの創造プロジェクト 高校生学力向上部会 鳥取県教育委員会(共著) ・Masahiko Aoto, Development of a “Can Do List” based on the “Model Core Curriculum”(2015) ・高等専門学校における外部試験を取り入れた英語教育の実践研究～米子工業高等専門学校における TOEIC の事例を中心に～(2018) ・Introduction of “Liberal Arts Discourse Meeting” at National Institute of Technology, Yonago College (ISATE 2019)